

## 自動車安全運転シンポジウム 2021 の概要

毎年自動車安全運転センターで開催されており、今回は「子供の交通安全 子供の視点から見た安全確保」というテーマで令和 3 年 11 月 9 日(火)14:00～15:50 の間、オンラインで開催された。

## ■ パネリスト

埼玉大学大学院理工学研究科 教授 久保田 尚氏、埼玉県立小児医療センター 小児救命救急センター 小児救命救急センター長 植田育也氏、モータージャーナリスト 岩貞るみこ氏、警察庁交通局 調査官 遠藤健二氏。

## ■ 久保田氏の発表内容

歩行中の死者が 35.6%で他国よりもダントツに多い。55%が自宅から 500m 以内。0.35×0.55≒20%で、かなりの割合。約 20%の人が自宅から 500m以内で亡くなっている。

死者ゼロを打ち出したのは 1997 年のスウェーデン。そのときの死者は 541 人(6.1 人/10 万人)。

30km/h 以下は命の境界線。平成 28 年に凸部、狭窄部、屈曲部が作られるようになった。ハンプの平らなところを横断歩道にする。ゴムのハンプは国交省が貸し出している。ハンプの高さは 10cm あり、児童の身長が 2 学年分くらい高くなるので、視認性が良くなり、81%の車両が停止しなかったが、100%停止するようになった。抜け道に使われている通学路において、07:30 にボラードが地面から飛び出して車の通行を禁止し、成功を収めた例がある。

## ■ 植田氏の発表内容

2000 年から 6 歳未満児のチャイルドシートが義務化されたが、着用率は 7 割程度である。チャイルドシートを適正に使用している方が重症化しているケースもある。

## ■ 岩貞氏の発表内容

トラックがセンターラインを越えて衝突してきたが、母親は打撲のみで子供が脳挫傷を負った事故があった。シートベルトがゆるかったのが原因だ。保護者の装着意識が重要である。道交法では 6 歳未満が義務化されているが、北米・欧州は身長で定めている。私は、小学生以下は全員が義務化とし、身長によって大人用ベルトを装着することが望ましいと考えている。

## ■ 遠藤氏の発表内容

6 歳未満が幼児、6 歳～13 歳未満が児童とされているが、小学生の死傷者の 7 割がシートベルト非着用である。

## ■ パネルディスカッションの内容

ハンプは音がすると思いがちだが、今のものは音がしない。

八街の死亡事故現場では、速度制限を 30km/h にしたと聞いている。また、ハンプが設置され、ガードパイプが設置されたと聞いている。

歩車分離信号は必要でない場所もある(待ち時間が長く、信号無視を誘発することもある)。

チャイルドシートは平成 12 年に制定した時点と今では異なる。身長との関係は広報・啓発していく必要がある。

以上